

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑩

- 男性 / 26歳
- 職業/年次： 飲食勤務
- 居住エリア： 新宿区
- 居住形態： 一人暮らし
- 奨学金： なし
- 2026年GWの計画： 仕事（繁忙期）
- 2026年夏休みの計画： 国内：淡路島（平日、飛行機+レンタカー）/12~13万

<結果サマリー>

効率に縛られた日常から離れ、時間・空間を贅沢に使い自らハンドルを操ることで『主導権』を確認

1. 導入

根拠：新宿のイタリアンバルで4年目を迎えるキッチン担当。深夜2~3時に帰宅し、昼過ぎまで寝る生活リズム。「安い食材をどうにかして旨く作る」自炊を生活防衛として楽しみつつ、スーパーの物価高や上がらない給料に「先のこと考えると『うわっ』となる」と将来への不安を抱える。

推論：職住近接を優先し、深夜の新宿を「孤独感がないが煩わしくもない」と評する点に、役割を演じ続ける疲れと、干渉されない自由への欲求が同居している。効率と節約を意識した日常は、単なる生活維持ではなく、自律性を保つための防衛手段となっている。

FD：日常を「狭いキッチンでの効率と回転数」に支配された空間と捉えており、そこから脱却するための「余白」を切望している状態にある。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWは繁忙期のため無休で働き、夏の平日に3泊4日の淡路島旅行を計画。予算12~13万円。「日常の楽しみを捨てて、ストレスを一気に解放する」ために、1泊4万円の海沿いの一軒家貸切を組み込む。移動は神戸までは飛行機、現地では「自分のペースでハンドルを握れる」レンタカーを重視。

推論：繁忙期に稼ぎ、閑散期の平日に贅沢をする「効率的な投資」の姿勢が鮮明である。一軒家や車を求めるのは、店での「シェフ」や街での「通行人」といった属性を剥ぎ取り、自分自身をその空間の主演として「再設定」するための投資である。

FD：物価高の影響で旅行が「選別」の対象となっており、中途半端な多頻度旅行よりも、一回の「空間と主導権の独占」に資源を全振りする傾向が強まっている。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：旅行を「自分の解体と再構築」と定義。デジタル旅行は「情報のカタログ」に過ぎず、実体験の代わりにならないと断じる。物価高等の制約下で、旅行の回数は減らさざるを得ないが、「移動の自由」と「一人の空間」だけは「仕事のモチベーション」として譲れない。

推論：海外旅行を選択肢から外すのは、現地での節約が「自由」を損なうからである。彼にとっての旅行の価値は、他者への誇示（SNS 映え）ではなく、誰からも期待されない「責任のなさ」を享受し、自分の意志だけで動いている実感を得ることに集約されている。

FD：彼にとって、旅行は娯楽を超え社会的な役割から一時的に離脱し、自らの主権を回復するための「個人的なメンテナンス」として機能している。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：「新宿の狭い1K」と「職場のキッチン」という閉塞的な日常に対し、淡路島の「人為的な演出が届かないスケール感」を対置させている。ガソリン代や宿泊費が高騰しても、自分の意志でアクセルを踏み、自分の目利きで選んだ食材を自分のためだけに調理するプロセスを死守しようとする。

推論：社会的な閉塞感や経済的制約が強まる中で、彼が最も恐れているのは「自分の人生の主導権を失うこと」である。旅行における「無駄な広さ」や「非効率な一人旅」は、普段の生活で徹底している効率化や生活防衛への反動であり、人間としての均衡を保つための必須要素となっている。

FD：彼にとっての旅行とは、経済的合理性の外側に「自分が主導権を握れる時間と空間」を強引に作り出すことで、日々の労働に耐えうる自分を繋ぎ止めるための、代替不可能な自己回復手段である。

1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は普段の生活や、お休みの日の過ごし方などについて、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。まずは、今どのような環境でお仕事をされたり、生活を送られたりしているか、簡単に教えていただけますか？

【対象者】 あ、よろしくお願いいたします。環境ですか……。今は新宿のマンションで一人暮らしをしていて、仕事は新宿区内の飲食店で働いています。ジャンルはイタリアンバルみたいな感じなんですけど、もうすぐ勤めて4年目になります。

【インタビュアー】 新宿での一人暮らし、お仕事もその近くということですね。普段、お休みの日などはどのように過ごされていることが多いですか？

【対象者】 休みは基本的に平日なので、周りとは合わないんですね。なので、大体は昼過ぎまで寝て、あとは溜まってた洗濯とか掃除をして。夕方くらいから、ちょっと動画見たり、たまに新宿の駅の方まで出て適当に買い物したり。本当に普通の、代わり映えしない休みですよ。

【インタビュアー】 「代わり映えしない」とのことですが、最近何かハマっていることや、つついやってしまうようなことはありますか？

【対象者】 ハマってること……。あ、最近は自炊をちょっと凝り始めて。仕事でも料理はしてるんですけど、自分のために作るとなるとまた別というか。安い食材をどうにかして旨く作るみたいな、そういう試行錯誤は面白いなと思ってやっています。

【インタビュアー】 「安い食材をどうにかして旨く作る」という試行錯誤。それは、何かきっかけがあって始められたんですか？

【対象者】 いや、きっかけってというか、単純に外食も高くなったじゃないですか。新宿だとラーメン一杯1,200円とか普通にするんで。そうすると、自分で作った方が早いし、浮いた分を他に回せるかな、みたいな。結局、生活防衛みたいなところもありますね。

【インタビュアー】 先ほど「仕事でも料理はしている」とおっしゃっていましたが、するとお仕事はシェフというか調理ご担当なのですね。普段の勤務時間はどんな感じなんですか？

【対象者】 あ、そうです。メインはキッチンですね。一応、ホールが忙しい時は手伝ったりもしますが。勤務時間は、基本は午後から。だいたい14時くらいにお店に入って、仕込みをして、夜の営業が終わって片付けまでやると、家に着くのは深夜の2時とか3時です。

【インタビュアー】 深夜の2時、3時ですか。新宿にお住まいなのは、やはり職場への通いやすさを優先してのことなんですか。

【対象者】 そうですね。ぶっちゃけ家賃は高いですけど、電車がなくなっても歩いて帰れるし、タクシー代を払うよりはマシかなって。あとは、この仕事してると生活リズムが普通の人とズレるので、新宿みたいな街の方が、深夜でも店が開いてて都合がいいっていうのもありますね。

【インタビュアー】 なるほど。生活リズムがズレるというお話でしたが、そうした日常の中で、将来のことやお金のことなど、何か不安に感じたり、意識したりすることはありますか？

【対象者】 不安……。まあ、このままこの仕事を続けていいのかなっていうのは、たまに考えますね。給料もそんなに上がらないし。物価が上がってるのは店でも実感しますが、自分の生活でも、スーパーに行くたびに「また高くなったな」って。貯金もそんなにできてるわけじゃないので、先の

こと考えると、ちょっと「うわっ」てなる時はあります。

【インタビューー】 今のお店にお勤めされて何年目ですか？ 新卒の時から同じお店で働いていらっしゃるのでしょうか。

【対象者】 あ、えっと、今の店は4年目になります。新卒というか、専門学校を卒業してから別のイタリアンで1年弱くらい修行したんですけど、そこがちょっと合わなくて。今のバルに移ってからは、ずっとここですね。

【インタビューー】 一度別のところを経験されて、今の場所が4年目ということですね。今の職場で長く続けられているのは、何か理由があるんですか？

【対象者】 うーん、なんだろう。前の店がかなりガチガチのコース料理の店で、上下関係も厳しすぎたっていうのはあるんですけど。今はもう少しカジュアルというか、お客さんとの距離も近いし、自分の意見も多少は料理に反映してもらえるので。あとは……まあ、新宿っていう場所が自分に合ってるのかもしれないです。良くも悪くも、いろんな人がいて干渉されない感じが。

【インタビューー】 「いろんな人がいて干渉されない感じ」ですか。そういう環境が、今の生活には心地よいのでしょうか？

【対象者】 心地よい……そうですね。仕事が終わって夜中に一人で歩いてても、誰かしら歩いてるし、孤独感がないというか。寂しくはないけど、誰かと深く関わらなきゃいけない煩わしさもない、みたいな。そういう距離感が、今の自分にはちょうどいいのかなって思います。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビューー】 ありがとうございます。日々の生活のバランスについて、よく分かりました。ここからは、今年の大連休の過ごし方について伺いたいのですが、まず、もうすぐ始まる今年のゴールデンウィークはどう過ごされる予定ですか？

【対象者】 GWは……まあ、基本ずっと仕事ですね。飲食なんで、一番の稼ぎ時というか。お店自体が予約でパンパンになるので、休むなんて発想すらないです。世間が休んでる時は、こっちは死ぬ気で働くっていうのが毎年のルーティンになってます。

【インタビューー】 世間が休んでいる時は、死ぬ気で働く。GWは完全に仕事モードなんですね。では、そのあとの「夏休み」については、何か計画を立てていらっしゃいますか？

【対象者】 夏は、ちょっとだけ休みをずらしてもらって、旅行に行こうと思ってます。8月の終わりか、9月の頭くらいの平日に。行き先は、兵庫県の淡路島に行こうかなと。

【インタビューー】 夏の平日に淡路島、いいですね。現時点で考えている具体的なプランがあれば教えてください。例えば、何日間くらいで、どういった手段で行かれる予定、など。

【対象者】 だいたい3泊4日くらいですかね。移動は、羽田から神戸まで飛行機で飛んで、そこからはレンタカーを借りようと思ってます。淡路島って車がないと話にならないって聞いたので。宿は、SNSで見た海が見える一軒家貸切みたいなところを1泊だけ取って、あとは普通のビジネスホテルでいいかなって考えてます。

【インタビューー】 神戸まで飛行機で、そこからレンタカーの「車旅」ですね。淡路島に行こうと思ったきっかけや、その場所を選んだ理由は何だったのでしょうか？

【対象者】 きっかけは……インスタで流れてきた写真ですかね。海沿いの道をドライブしてる動画があって。最近、仕事がずっと忙しくて、新宿の雑踏の中にしかないなので、とにかく「何もない、開けた場所」に行きたくなったというか。あと、淡路島なら食材も良さそうだし、職業柄、現地の旨いもんを食べ歩くのも面白いかなと思って。

【インタビュアー】 「何もない、開けた場所」を求めての選択だったんですね。移動手段として「車」を選んだり、宿を「1泊だけ貸切、あとはビジホ」という構成にしたりしたのは、何を重視して判断されたんですか？

【対象者】 車に関しては、自分のペースで動きたいっていうのが一番です。誰にも邪魔されずに、好きな音楽かけて運転するのがストレス解消になるんで。宿については、全部を豪華にする余裕はないけど、一晩くらいは「良いところに泊まった」っていう記憶を残したくて。全部ビジホだと、せっかくの旅行なのに日常の延長線っぽくなっちゃうじゃないですか。そのメリハリは意識しましたね。

【インタビュアー】 今回の淡路島旅行、3泊4日で飛行機とレンタカー、宿の使い分けなど具体的に考えていらっしゃるんですが、全体の費用については現時点でどのくらいを見込んでいますか？

【対象者】 うーん、ざっくりですけど、全部で12、3万くらいには収めたいなと思ってます。飛行機は早めに取りれば片道1万ちょっとで行けるし、レンタカーも平日に借りればそこまで高くはないかなって。ただ、宿の「一軒家」が1泊で4万くらいするので、そこが一番の出費ですね。あとのビジホは1泊7、8千円のところで抑えようと思ってます。

【インタビュアー】 12、3万という予算ですね。普段、自炊などで「生活防衛」をされているというお話もありましたが、そうした日常の生活費と、こうした旅行のような遊興費のバランスについては、ご自身の中でどう整理されていますか？

【対象者】 正直、今の給料で10万超えの出費は結構きついです。だからこそ、普段は極力、無駄な外食とか服代とかを削って、その分を旅行に回すというか。日常の楽しみを全部捨てて、その溜まったストレスを旅行で一気に解放する、みたいな感覚に近いかもしれないです。「普段頑張ってるから、ここだけは贅沢させてくれ」っていう、自分への言い訳みたいな（笑）。

【インタビュアー】 「日常を削って、旅行で解放する」という感覚なんですね。今回の計画を立てるにあたって、本当はやりたかったけれど、予算や状況を考えて「我慢したこと」や「諦めたこと」は何かありますか？

【対象者】 本当は、淡路島だけじゃなくて四国の方まで足を伸ばしたかったんですよね。高知の方まで行って、もっとがっつりドライブしたかった。でも、そうするとレンタカー代もガソリン代も跳ね上がるし、何より移動ばかりで宿でゆっくりする時間が減っちゃうなと思って。今の物価高だと、あれもこれもって欲張ると予算がすぐパンクしちゃうんで、今回は「淡路島に絞る」という選択をしました。

【インタビュアー】 なるほど、範囲を絞ることで質を担保されたのですね。ちなみに、GWは仕事、夏は旅行という構成ですが、この「GWと夏休みのバランス」については、最初から意識して決められたのでしょうか？

【対象者】 バランスっていうか、消去法に近いですね。GWに休もうとすると、どこも高いし混んでるじゃないですか。飲食の人間からすると、高い時期に高い金を払って人混みに行くのって、一番効率が悪い気がしちゃって。だったらGWはしっかり稼いで、その分を夏に、誰もいない平日の旅行に全

振りしたほうが賢いかなって。

【インタビュアー】 「効率」という言葉が出ましたが、去年の 2025 年と比べて、旅行への向き合い方や、お金の使い道で意識的に変えたこと、あるいは「変えざるを得なかったこと」はありますか？

【対象者】 去年よりさらに「選別」がシビアになった気がします。去年はまだ「たまにはいいか」って感じで、休みの日によく考えずに出かけたりしてましたけど、今は一回一回の外出や旅行に「それだけの価値があるか？」って自問自答しちゃいますね。円安とか物価高とか、ニュースでも自分の財布でも実感するんで、適当に遊ぶのが怖くなったというか。だからこそ、今年の夏は中途半端なところに行くより、淡路島で「これだ」っていう体験をしたって気持ちが強くなってるんだと思います。

【インタビュアー】 追加で伺いたいのですが、今回の淡路島へのご旅行はお一人で行かれるのですか？ また、淡路島に絞って 3 泊 4 日とのことですが、その間はずっと島内にいらっしゃるのでしょうか。具体的にどう過ごす予定なのか、もう少し詳しく教えてください。

【対象者】 あ、今回は一人です。誰かと予定合わせるのも面倒だし、さっき言ったみたいに「自分のペースで運転したい」というのが大きいんで。気を遣わずに、ふらっと行きたいところに行けるのがいいかなと。

過ごし方は、基本的には島を一周する感じでドライブしようと思ってます。1 日目は神戸で車を借りて、明石海峡大橋を渡ってすぐのエリアで適当に旨そうな店を探して。2 日目に、さっき言った海沿いの一軒家に泊まる予定なので、その日は早めにチェックインして、地元のスーパーとかで魚とか肉を買い込んで、自分で酒飲みながら料理してダラダラするつもりです。

【インタビュアー】 ご自身で食材を買い込んで料理を。3 日目、4 日目はどうされるんですか？

【対象者】 3 日目は、南の方まで下りて、鳴門の渦潮とか見れたらいいかな。でも、あんまり「観光地巡り！」って感じにはしたくなくて。展望台とか、車を停めて海が綺麗に見える場所で、ただぼーっとタバコ吸ったりスマホいじったりする時間が欲しくて行く感じなので。予定を詰めすぎず、その時の気分で走る道を決めるのが贅沢かなって思ってます。

【インタビュアー】 「ただぼーっとする時間が欲しくて行く」とのことですが、わざわざ淡路島まで行かなくても、近場の公園などでぼーっとするのは何が違うのでしょうか？

【対象者】 全然違いますね。新宿の公園だと、どうしても周りに人がいるし、サイレンの音とか街のノイズが聞こえてくるじゃないですか。結局、日常の圏内なんですよ。でも、知らない土地で、目の前が全部海で、誰も自分を知ってる人がいない場所に行くっていうのは、なんていうか……自分の「設定」をリセットしに行くみたいな感覚なんです。高い金払って遠くに行くのは、その「日常との距離感」を買ってるんだと思います。

【インタビュアー】 その「海沿いの一軒家」について、SNS で見かけてなぜそんなに泊まりたくなったんでしょうか？お一人で使うには、少し広すぎたりしませんか？

【対象者】 あー、確かに一人だと持て余す広さだとは思いますが。寝室が 2 つあったりしますしね。でも、なんて言うか……「余白」が欲しかったんですよ。

新宿の 1K の部屋って、寝る場所も食べる場所も全部がギュッとしてるじゃないですか。仕事場も狭いキッチンで、常に効率とか回転数を考えて動かなきゃいけない。そんな毎日だと、たまには「自分一人に対して、過剰なくらい広い空間」に身を置いてみたくなるんです。SNS で見たその一軒家は、リビングの大きな窓が全部海に面していて、テラスもあって。そこに椅子を置いて、ただ座っている自

分の姿を想像した時に、すごく……救われる感じがしたというか。

【インタビュアー】 「救われる感じ」。今の生活の「ギュッとした感じ」とは対極にある空間を求めている、ということでしょうか。

【対象者】 そうですね。広い空間を独り占めするっていうのが、自分にとって一番の贅沢なんだと思います。別に誰かとワイワイしたいわけじゃなくて、その「無駄な広さ」を自分だけで味わうことに意味がある。SNS でキラキラしたホテルとかも流れてきますけど、高級ホテルだと結局「客の一人」として扱われるじゃないですか。一軒家なら、その空間の主役になれる。それが今の自分には必要だったんだと思います。

【インタビュアー】 「空間の主役になれる」。その感覚は、普段の生活ではなかなか得られないものですか？

【対象者】 まず無理ですね。仕事中は「シェフ」っていう役割だし、新宿の街に出れば「その他大勢」の通行人でしかない。自分の意志で、自分のペースだけで空間を支配できる場所って、今の生活にはどこにもないんですよ。だから、4万円払ってでも、その「自由」を買いに行ってるんだと思います。

【インタビュアー】 ちなみに、「現地のうまいもんを食べ歩くのも面白いかな」とおっしゃっていましたが、「これは食べたい」とお考えのものがあつたりするのでしょうか？

【対象者】 あー、やっぱり淡路島なら「玉ねぎ」ですかね。ありきたりですけど、仕事で使っても淡路のやつは質が良いんで。現地のローストしたやつとか、シンプルに食べてみたいです。あとは「淡路牛」とか、生しらすとか。

でも、一番やりたいのは、さっき言った一軒家で「自分で料理すること」なんですよ。現地のスーパーとか直売所に行って、その日の朝獲れた魚とか、不揃いだけど味は濃い野菜とかを、自分の目利きで選んで。それをテキストにグリルしたり刺身にしたりして、海を見ながら酒と一緒にやる。

【インタビュアー】 仕事で料理をされているからこそ、現地の素材を自分の手で調理することに魅力を感じているんですね。

【対象者】 そうですね。店だと「原価」とか「ロス」とか「見た目」を常に気にしなきゃいけないですけど、旅先で自分のためだけに作るなら、そんなのどうでもいいじゃないですか。ちょっと高めのいいオリーブオイルを現地で買って、ドバドバ使ったりして（笑）。そういう「プロとしての技術を、自分の贅沢のためだけに無駄遣いする」みたいな感覚が、最高にリフレッシュになる気がするんです。

【インタビュアー】 さらに伺いたいののですが、お話を伺っていても、なぜそこまで「淡路島」に惹かれたのかがまだ完全には見えてこなくて。島という意味では他にもたくさん選択肢がある中で、なぜ淡路島だったんでしょうか？ 神戸の街も、ただの経由地としてプランには入っていないようすし。

【対象者】 あー……。そうですね、なんで淡路島なのか。ぶっちゃけ、沖縄とか離島まで行っちゃうと、今度は「気合が入りすぎちゃう」んですよ。飛行機の時間も長いし、旅費ももっと跳ね上がる。淡路島って、神戸から橋一本で渡れるじゃないですか。その「都会のすぐ隣にあるのに、渡った瞬間に空気が変わる」っていう、絶妙な距離感が今の自分にはちょうど良かったんだと思います。

あと、神戸をスルーするのは……。神戸の街中って、結局は新宿と同じ「洗練された都会」じゃないですか。綺麗なビルがあって、おしゃれな店があって。今の自分は、そういう「誰かが作り込んだ景色」にはもうお腹いっぱいなんです。

【インタビュアー】 「誰かが作り込んだ景色にはお腹いっぱい」というのは、どういう感覚なんですよ

うか？

【対象者】 仕事で毎日、盛り付けとか内装とか、演出された空間にいるからですかね。神戸の綺麗な街並みを見ても、「あ、これ維持するの大変そうだな」とか、余計なこと考えちゃうんですよ（笑）。淡路島みたいに、もっと土っぽいというか、ただ海があって、山があって、そこにデカイ橋がドーンと架かっている、みたいな。そういう、人為的な演出が届かないくらいのスケール感の中にいたい。「惹かれた」っていうより、「今の自分が窒息しないために、一番近い逃げ場がそこだった」って感じかもしれないです。

【インタビュアー】 「窒息しないための、一番近い逃げ場」。その感覚は、淡路島という場所の何が満たしてくれそうだと期待していますか？

【対象者】 うーん……「責任のなさ」ですかね。島に入ってレンタカーを走らせてしまえば、誰からも何も期待されない。ただの「移動してる物体」になれる。神戸みたいに歩いているだけで「客」として値踏みされるような場所じゃなくて、もっとこう……背景に溶け込める感じ。淡路島なら、一軒家で自分で飯作って、飽きたら海見て、また寝る。そのサイクルを誰にも邪魔されずに回せる。その「自分だけの閉じた世界」を作るのに、淡路島のあの広さと、適度な田舎加減が、今の僕の財布と精神状態にはベストだったんです。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 淡路島での過ごし方、特に「自分だけの閉じた世界」を作るというお話、非常に印象的でした。少し視点を広げて伺いたいのですが、今後やってみたい旅行や、気になっている旅のスタイルは何かありますか？

【対象者】 今後……そうですね。今回は淡路島ですけど、もっと時間が取れるなら、それこそ北海道を1週間くらいかけて車で一周するとか、そういう極端に「移動」に振り切った旅はしてみたいです。

【インタビュアー】 「移動」に振り切る旅、いいですね。例えば、若い世代だと「青春18きっぷ」で時間をかけて移動する旅や、最近だと YouTube の絶景動画やイマーシブ体験のような「デジタル旅行」もありますが、それらについてはどう感じますか？

【対象者】 18きっぷは、正直もうキツいかなって思います（笑）。学生の頃なら楽しめたんですけど、今は「時間をお金で買う」感覚が強くなって。移動そのものに苦勞するより、現地でいかに自分の時間を確保するかが大事なので。あと「デジタル旅行」については……たまに見ますよ、YouTube でキャンプ動画とか海外の街歩き動画とか。でも、それはあくまで「カタログ」を見る感覚ですね。画面越しだと、風の匂いも、エンジンの振動も、現地のスーパーの変な空気感も伝わってこないじゃないですか。情報を得ることと、そこに「居る」ことは別物だと思うので。代わりにはならないですね。

【インタビュアー】 「代わりにはならない」。情報と体験を明確に分けていらっしゃるんですね。改めて伺いますが、今のあなたにとって「旅行」とは一言で言うと、どのようなもの、あるいはどのような時間だと言えますか？

【対象者】 一言で言うなら……「自分の解体と再構築」ですかね。さっきも言いましたが、普段の生活って、どうしても「新宿のイタリアンで働いている自分」っていう枠に縛られてるんですよ。そ

の枠を一度壊して、誰も知らない場所でただの「個」に戻る。で、また新宿に戻って戦うためのエネルギーを、広い空とか海から補給してくる、みたいな。そういうメンテナンス作業に近い気がします。

【インタビュアー】 メンテナンス作業、ですか。今後、物価の上昇や社会保険料の負担増など、生活を取り巻く経済的な制約はさらに厳しくなっていくことが予想されますが、そうした中で、あなたの「旅行」はどう変わっていくと思いますか？

【対象者】 ……間違いなく、回数は減るでしょうね。適当な旅行は淘汰されていくと思います。「なんとなく連休だからどっか行こう」みたいなのは、もう贅沢すぎてできない。そうなると、一回あたりの重みが増すというか、本当に自分が「ここだ」と思える場所に、狙い澄まして行くようになるんじゃないでしょうか。要望としては「もっと頻繁に、自由に」って思いますけど、現実には「1年に1回、死ぬ気で貯めて、最高の1軒に泊まる」っていうスタイルに集約されていく気がします。

【インタビュアー】 そうした「集約されていく」未来に対して、ご自身ではどのように感じていらっしゃいますか？

【対象者】 寂しいですけど、まあ、仕方ないですよ。みんな苦しいのは一緒だし。でも、そうやって選択肢が絞られる分、一回の旅行への向き合い方は、今よりもっと濃くなるんじゃないかな、とも思います。

【インタビュアー】 厳しい制約がある中で、これだけは「絶対に譲れない」「これだけはやりたい」と思うことは何でしょうか。

【対象者】 「移動の自由」と「一人の空間」です。たとえ宿泊先がテントになろうが、安宿になろうが、自分の好きな時に車を走らせて、誰にも邪魔されない場所に自分を置く。そこだけは妥協したくないです。それまで奪われたら、多分、仕事のモチベーションも保てなくなると思うので。これがあから、今は新宿の狭いキッチンで深夜まで頑張ってるんだと思います。

【インタビュアー】 だとすると、「車で走る」ことは旅行の絶対条件なのではないでしょうか？

【対象者】 あー、そうですね……。今の自分にとっては、ほぼ絶対条件に近いかもしれません。

電車とか飛行機って、結局「誰かが決めた時刻表」に縛られるじゃないですか。駅に行けば人が大勢いて、隣に知らない人が座って。それって、新宿で満員電車に乗ったり、店で予約時間に追われてるのと、構造的には何も変わらないんですよ。

でも、車なら自分のタイミングでアクセルを踏めるし、気に入った場所があれば勝手に止まれる。あの「自分の意志だけで動いている感覚」が、今の僕には何よりも必要なんです。

【インタビュアー】 「自分の意志だけで動いている感覚」。それは、単なる移動以上の意味があるのですね。

【対象者】 そうですね。普段の仕事は、注文が入れば作らなきゃいけないし、店のオペレーションに従わなきゃいけない。「待機」とか「対応」の連続なんです。だから、ハンドルの主導権を自分が握っているっていうのは、大げさですけど「自分の人生を取り戻してる時間」っていう感じがするんです。たとえガソリン代が高くなっても、その自由だけは手放したくないですね。

【インタビュアー】 なるほど。ここまで海外旅行のお話が出ませんでした。海外旅行にはあまりご興味がないですか？

【対象者】 海外……正直、今は選択肢に入らないですね。興味がないわけじゃないです。学生の頃は「いつかイタリアの本場で料理を見たい」とか思っていましたけど。

でも、今のこの円安と物価高でしょ？ ニュースでラーメン一杯 3,000 円とか見ると、もう別世界の話だなんて。今の自分の給料で無理して海外行っても、結局「金がないからこれは食べられない」とか「こっちの安い宿にしよう」とか、向こうでも節約のことばかり考えなきゃいけない。それって、全然リフレッシュにならないと思うんですよ。

【インタビュアー】 「向こうでも節約を考えるのはリフレッシュにならない」。つまり、無理をして海外に行くよりも、国内で質を担保する方が優先度が高いということでしょうか。

【対象者】 そうです。1 ドル 150 円とか 160 円とか、そんな状況で海外に行くのは、今の僕には身の丈に合っていない。だったら、その予算を全部淡路島の一軒家とか、現地で使う食材に突っ込んだ方が、よっぽど「自由」を感じられる気がします。

見栄を張って海外の写真を SNS に上げるより、誰もいない日本の海沿いで、誰にも邪魔されずに旨いもん作ってる方が、今の自分にはリアルだし、贅沢だなんて思います。

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、貴重なお話をたくさんお聞かせいただき、本当にありがとうございました。伺ったお話はすべて大切に受け止めさせていただきます。

【対象者】 あ、いえ、こちらこそ。自分のことをこんなに話す機会もあまりないので、面白かったです。ありがとうございました。